

洗足学園音楽大学

邦楽 冬の演奏会

2021年12月11日（土） 14：00開演（13：30 開場）

洗足学園音楽大学 シルバーマウンテンBF

主催：洗足学園音楽大学・大学院

協力：現代邦楽研究所

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

【プログラム】

1 「六段の調」 八橋検校 作曲

箏：平原 愛香 陳卓

笛：馬 新凱

2 「三つのパラフレーズ」 沢井忠夫 作曲

箏Ⅰ：中村 美優

箏Ⅱ：川田 健太

3 「津軽じょんから節」 「津軽よされ節」 日本民謡

唄・踊り：柿崎 竹美

津軽三味線：染谷 美里

打ち物：富田 慎平

休憩 15分

4 「郷音」 水川寿也 作曲

尺八（笛）Ⅰ：馮 蕊

尺八（笛）Ⅱ：馬 新凱

5 「奏鳴」 杵屋正邦 作曲

尺八（笛）Ⅰ：馮 蕊

尺八（笛）Ⅱ：馬 新凱

三絃Ⅰ：染谷 美里

三絃Ⅱ：平原 愛香

箏Ⅰ：中村 美優 志水 真菜

箏Ⅱ：碓井 由希子 陳卓

十七絃：川田 健太

【出演者】

馮 蕊（院2：笛） 馬 新凱（院1：笛） 陳卓（院1：箏）

染谷 美里（学4：津軽三味線） 中村 美優（学3：箏）

川田 健太（学2：箏）

碓井 由希子（現邦研：箏） 志水 真菜（現邦研：箏）

平原 愛香（卒業生：箏・三絃）

富田 慎平（講師：打ち物） 柿崎 竹美（講師：唄・踊り）

松尾 祐孝（教授：司会）

【制作】

おことの店 谷川（セッティング）

山口 賢治（講師：アカデミックコーディネーター）

【曲解説】

「六段の調」八橋検校 作曲

段物と呼ばれる箏曲のひとつ。段物または調べ物の中の代表曲。近世箏曲の祖である八橋検校により作曲されたと伝えられている。箏の調弦は平調子。(後に雲井調子の替え手も出来た)各段が52拍子(104拍・初段のみ54拍子)で六段の構成となっている。箏組歌や大多数の地歌曲と異なり、歌を伴わない純器楽曲である。千鳥の曲と並び江戸時代の古典箏曲を代表する曲の一つであり、現代においてもBGMとして広く使用されている。学校教育における観賞用教材としても採用されている。本来は箏の独奏曲であるが、後世合奏用にいくつもの箏の替え手が作られて合奏されることも多く、また三絃にも移され、さらにその替え手が作られ、加えて胡弓や尺八各派でも手付けがなされており、三曲合奏や箏の替え手とあわせ二重奏など、いろいろな合奏編成で演奏されることも多い。[Wikipedia]

※本日の演奏では箏と笛の編成で演奏します。

「三つのパラフレーズ」沢井忠夫 作曲

第一章「組歌による」本来の箏曲における“組歌”。現代の目からはきわめて地味で唄の伴奏的な役割をなす単純な音型の箏の手法をモチーフとし、瞬間的転調と移調により、古典の響きを多角的に屈折させつつ、前面に押し出している。

第二章「楽の手による」おおらかにして優雅な“楽”の手を五段にまとめ、五段変容ともいえる小曲。

第三章「輪舌による」段物の中でもとくに力強さと華やかさを持つ輪舌から、“搔手”と“すくい爪”のテクニクを現代的に発展させた楽章。1973年作曲。[作曲者]

「津軽じょんから節、津軽よされ節」日本民謡

一般的に津軽三味線とは、最後の門付芸人と呼ばれる盲目の奏者(高橋竹山)による独奏や、多人数による大合奏等を想像されますが、本来の役割として津軽民謡の伴奏(唄付け)と津軽手踊りの伴奏(地方)があります。津軽五大民謡と呼ばれるじょんから節、よされ節、小原節、あいや節、三下りは基本的に即興で演奏され、古くから唄い手や奏者同士で独創性、表現力、技術力を競い合ってきました。今回はじょんから節の手踊りと独奏、五大民謡の中でも特に伴奏が難しいとされるよされ節の唄付けをご紹介します。曲名の(よされ)は諸説ありますが、貧困や凶作の苦しい世の中が早く過ぎ去ってほしいという(世去れ)が語源という説があり、「疫病の世の中よ早く去れ」という願いからコロナ禍で演奏される機会が多くなっております。[山中信人]

尺八二重奏曲「郷音」水川寿也 作曲

尺八の五つの指孔を順番に開けるとDFGACの音が出ます。これ以外の音を出すにはメリ、カリといわれる奏法が必要で初心者には難しくなります。今回はこの五つの音だけで曲にまとめてみました。陽旋法と呼ばれる日本の音階で出来上がっていますので、自然と曲想はほのぼのとした感じになります。五音→ごおん→ごうおん→郷音のシャレだったのですが曲想にぴったりで、そのまま曲名になりました。

[楽譜解説]

※本日の演奏では尺八の代わりに笛の二重奏で演奏します。

「奏鳴」杵屋正邦 作曲

作品の主題となっている印象的な旋律が冒頭でユニゾンで奏される。この印象的な旋律は少しずつ形を変えながら曲全体に散りばめられている。中間部では新しいテーマが三味線によって示される。ここには不協和音的、そして半音進行という手法の深みのある緊張感を表している。それに続き楽しげなリズムと旋律が始まり尺八のソロ部分へとつながる。十七絃の力強いリズムで導き、三味線と尺八の迫力あるリズムと旋律でクライマックスを迎える。冒頭の印象的な旋律を全員で奏でて終章にむかう。1965年NHK委嘱

[現代三味線音楽協会主催 杵屋正邦作品演奏会プログラムより]

※本日の演奏では尺八パートを笛で演奏します。



洗足学園音楽大学